(4) 家庭における母から娘への性教育と母娘関係

川崎医療福祉大学大学院　保健看護学専攻　修士課程　○小山　裕子
川崎医療福祉大学　保健看護学科　　杉浦　絹子

【要　旨】

【研究目的】

初産の妊婦を対象に，家庭における性教育の実態を母娘間の関係性と関連づけて明らかにすることを目的とした.

【研究方法】

2012年6月～8月に，中国地方にある産婦人科病院，産婦人科診療所に，母娘関係を測定する尺度，母娘間の性に関する会話状況他の質問で構成された無記名自記式質問紙による調査を行い，得られた133名の回答を分析した.

【結果】

本研究で作成した母娘関係を測定する尺度は，因子分析の結果,「母は私の考え方を尊敬している」,「母と話すことが嬉しい」他5項目で成る「親密」と,「母は私の行動にすぐ口を出す」,「私は母の機嫌を見ながら行動することが多い」他4項目で成る「従属」の2因子で構成されていた．1項目あたりの平均得点の比較では,「親密」が「従属」よりも高かった.

妊娠前に性に関する会話のあった者は42.9%，妊娠後にある者は25%であった．現在性に関する会話あり群となし群間で母娘関係の親密・従属尺度の平均点をt検定により比較したところ，「母娘関係の親密・従属尺度」，下位尺度いずれにおいても有意差が認められた（$p<0.001$，$p<0.01$，$p<0.05$）．また，現在性に関する会話あり群となし群で性に関する知識に関する質問の正答率をχ^2検定で比較したところ，有意差は認められなかった.

【考察】

妊娠期には，特に初産の妊婦は母親の支援を必要とし，母娘間の関係性が親密になる時期であることが，多くの先行研究により明らかとなっている．本調査結果においても親密性が高い状況であった．このように母娘間の親密さが増している中，かつ母親が娘の妊娠の事実とその前提にある性行為を承知している状況においても母娘間で性に関する会話がなされている割合は低く，母親が娘に性に関する正確な知識を伝授しているとは言えない現状であることが窺えた．今後，家庭以外での場の性教育を充実していくこと，ならびに母親自身にも性に関する正確な知識を教授する場を設けることの必要性が示唆された.